

---

# 花占い

江角 稚

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

花占い

### 【Nコード】

N3805BA

### 【作者名】

江角 稚

### 【あらすじ】

素直になれない女の子が、伝えたかった想い。

## プロローグ

「あんたさあ、彼のこと好きでしょ？」

友人が、唐突に聞いて来た。

「…はあ？」

勿論、これは私の返事だ。

「そんな訳…ないじゃん」

私はそっぽを向く。

しかし、友人は私の顔を覗き込んで言った。

「もう…いい加減、素直になったら？」

「いや、十分素直なんですけど」

「いや！ 全然！！ 素直には見えませんよっ」

ニヤリと笑い、彼女は提案して来た。

「そこでそこで！ 素直になれないお嬢さんに、取って置きのおまじないを教えてあげましょー」

「…おまじない？」

ちよっと、興味があった。

「へえ、どんな？」

「お？ 食いついて来たね。それは…」

## girl's part

好きか嫌いかなんて、分からないよ。

他人って…何で、そんなことを聞きたがるんだろう。  
何で、はっきりさせたがるんだろう。

私は、曖昧にしておきたいのに。

居心地の良い、曖昧さのままで居たいのに。

放課後、窓の外から校庭を見下ろす。

あ。

今日も、サッカーやってる。

沢山の人間が走り回ってるのに…何故か、あいつだけはすぐに見つけられるんだ。

まるで、色が付いたみたいに。

これが…”好き”ってこと？

分からないよ。

「何でかなあ…」

私はぽつり、呟いた。

帰ろ。

そう思い、外に出た。

ふと、校庭の隅に目が行く。

一輪の花。

可憐な、白い、花。

「わあ、綺麗…」

素直な気持ちだが、声になって出て来た。

その時、思い出したんだ。

さっき話していた、おまじないのことを。  
素直になれる、おまじないを。

…もしかしたら。

この花になら、真っ直ぐ向き合えるかもしれない。

素直に、なれるかもしれない。

「ごめんね」

一生懸命、生きた花だけど。

私はおまじないのために、その一輪を手折った。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3805ba/>

---

花占い

2012年1月10日11時02分発行